

もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	健康福祉部医療政策課	氏名	樋口 政弘
派遣先 団体名	特定非営利活動法人 久米の家		
<p>① 研修の日時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月22日(土) 12:30~15:30 ・11月21日(月)、30日(水)、12月7日(水)、8日(木) 10:00~16:30 <p>② 研修の内容(できるだけ詳しく記載してください。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月22日 「久米の家秋祭り」において、スタッフ補助としてパンの販売やゲームコーナーでの運営・後片付け等を行った。 ・11月21日、30日、12月7日 小規模多機能型居宅介護施設「ほっと」において、利用者との談笑やレクリエーションへの参加を通し、どのように過ごしておられるかを知るとともに、配膳や移動の際の補助を行った。 ・12月8日 グループホーム「久米の家」において、洗濯や食事を一緒に行い、会話や歌を歌ったりすることで、入居者の毎日の生活を体感した。 			
<p>③ 修の感想</p> <p>(研修の全般的な感想、各団体での活動の意義や協働に対する感想(研修前後における意識の変化)等について記入してください。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護というと「してあげる」というイメージであったが、利用者ができることは自分です、できないところをサポートするものということを認識した。(レクリエーションはあえて2階で実施、ほとんどの方が階段を自分の足で上がって移動しておられた。) ・特にグループホーム「久米の家」では、基本的に自分の事は自分でされており、自分の家で生活しているような環境を提供できるようにしておられた。 ・最初は何をどうしたらよいかわからず、何を話していいかも戸惑ったが、徐々に慣れてくると利用者の方との会話も弾んできた。笑顔で楽しく過ごしておられる皆さんの姿が印象に残った。 ・スタッフの皆さんは、時には冗談も言いながら明るく接するとともに、一人ひとりの動きをしっかりと見て適切な対応を取られており、それが利用者の心にしっかりと届き安心して過ごしておられるということが感じ取れた。こうした対応力や判断力は、我々県職員の学ぶべきことが多々あると思う。 			



- ・理事長のお話をうかがう中で、地域に密着し自宅にいるのと同じ感覚で利用者の皆さんに過ごしてもらうこと、NPOでやっていくことの意義といった熱い想いを聞くことができた。多くのボランティアが、秋祭りはもちろん、普段の生活においても銭太鼓やコーラスで来られており、理事長の想いが色々なところに伝わっていることを実感した。
- ・これからの医療・介護をどうしていくかという仕事に携わる中で、机上の理論だけではなく、こういった実際の現場を知ることで、どう業務に生かしていくかを改めて考える機会となった。

④ その他特記事項

(※今後の研修実施に当たっての改善点、留意しておくべきことなどがあれば記入してください。)

- ・日程を指定されるわけではなく、来れるときに来て下さいということだったので、自分の仕事との調整が容易だった。
- ・その反面、理事長以外の職員に研修で自分が行くことが伝わっているかどうかはわからず、仕事の邪魔になっているのではないかと不安にある点もあった。

(注1)研修日時・内容等がわかる資料があれば、添付してください。

(注2)報告書は、平成28年1月31日までに人事課あてにメールで提出してください。